

平成 27 年度庄原市研究主任研修会

平成 27 年 8 月 7 日（金）庄原市東城自治振興センター 1 階 研修室

教育研究及び校内研修の進め方等に係る研修を通して、学校組織運営の中核を担う研究主任としての自覚及び役割について理解を深め、資質向上を図ることを目的に研修会を行いました。

講話・演習 「研究主任の役割」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 佐々木 孝



- ◆（講話）研究主任の役割は、研究推進計画の立案・実施・まとめ、研究推進に係る連絡調整等を行うこと。
- ◆（演習）自校の研究推進を「研究体制」、「校内授業研究」、「検証と改善」の視点で振り返り、課題及び改善策を明確にすること。【参考】「授業研究ハンドブック（県立教育センター）」

（参加者の声）

- ◆研究主任の役割（5点）や研究及び校内研修の進め方を明確にすることができた。
- ◆研究仮説をもとに授業仮説を立て検証していたが、評価規準が明確でなく、検証があいまいであることが分かった。改善していきたい。

演習 「法令演習」

庄原市教育委員会 教育指導課 管理主事 辻坊 健作



- ◆教育公務員としての職責を自覚するとともに、法令に基づいて職務を遂行すること。
- ◆公務員として、法令法規を踏まえて適切なサービス意識をもつこと。

（参加者の様子）

- ◆法令法規に基づいて職務遂行していることは認識していても、法令法規の名称や条項の内容については不確かで、実際に調べ協議することを通して、再認識した。

講話 「広島版『学びの変革』アクション・プランについて」

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 高淵 直哉



- ◆「『学びの変革』アクション・プラン」の趣旨を踏まえ、児童生徒の主体的な学びを創造すること。その際、育成したい資質・能力と児童生徒実態との差を明らかにし、単元づくりや評価を工夫すること。

（参加者の声）

- ◆「『学びの変革』アクション・プラン」について、再度、理論研修を行い、全体で議論する必要がある。
- ◆コンピテンシーの4つの要素に基づいた児童実態の把握や研究テーマの設定が必要であることを学んだ。

実践報告 『学びの変革』パイロット校事業指定校の取組
 庄原市立東城小学校 パイロット教員 片山 博子教諭
 庄原市立西城中学校 パイロット教員 和田 杏奈教諭



パイロット教員の片山教諭及び和田教諭によるパイロット校事業指定校における研究推進に係る報告。

- ◆ 指定校の役割や研究内容。
- ◆ 児童生徒の実態を踏まえた育成したい資質・能力の設定。
- ◆ 単元開発（パフォーマンス課題、パフォーマンス評価）等。



(参加者の声)

- ◆ パイロット校が実践されている研修内容・方法が具体的で分かりやすい。本校でも取り入れていきたい。
- ◆ 指導案の中に、主体的な学びの姿を明記する。
- ◆ 児童生徒の実態から、育てたい資質・能力を整理していく。
- ◆ パフォーマンス課題及び評価の例，研究便りによる研修内容の共有化など参考になった。資料を提示しながら校内研修において本校教職員に共有化を図る。

協議・演習 『主体的な学び』の創造に向けた研究推進について
 庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 横山 博之



「『学びの変革』アクション・プラン」を踏まえ、「主体的な学びの創造に向けた研究推進を行うこと。

- ◆ 主体的に学んでいる児童生徒の姿を共有化すること。
- ◆ 自校の研究推進計画が、主体的な学びの創造につながっているか検討し，課題を改善すること。



(参加者の声)

- ◆ 「主体的な学び」について、生徒実態をもとにどのように考えていくか，協議していく必要がある。
- ◆ 「『学びの変革』アクション・プラン」等，今回の研修内容を踏まえ，自校において2学期以降の研究の方向性を協議し，共通認識を図っていく。
- ◆ 「『学びの変革』アクション・プラン」については，校内研修を行っているが，授業研究の際には，研究主任として本校の研究と関連付けていくなど，工夫をしていく。